(廿九日夕刊)

磐城新聞

休刊 大祭 第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料 一行五十錢(指定廿錢増)
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

無軌道の方向に就て

高瀬勝男

純一が丘氏の説に大變無軌道を辯護して下さつて段々兩者の雲行が不安になつし、無軌道をはなれた兩者の個人的論爭に激した様ですが、私が無軌道の當事者として無軌道の貴方達におたいてゆく約束を論逃します。

無軌道が丘氏の筆で隨分面倒に批判されてゐますが丘氏の謬説を尤もと見た御ゐはそれでいゝでしよう、プロとかブルとかいふ既成概念で無軌道が決定されるとしたら無軌道は實にくだらない雜法です。

だからといつて、即ちマルクス流にいふ現段階を統視だ文藝なるものわざ觀念的にとらわれた、いゝ方が必要でありそれを是非鮮明してもらひたひと謂ふならば無軌道は民衆の知力に依據してすくなくとも叫び得るプロ誌で理屈にとらわれざる君達の雜誌であるべき簡單に謂ひ置きます。

もつときりつめた色合を欲する貴方達であつたら無軌道は生活をしてる生産の一義的放射の諸体であるといゝましよう。

三野がどうの同人がこうと別個した觀察をはぶひて君達が語り得る言葉を下賤しない方がいゝでしよう、どうしても謂わざれば止ますの意見であるなればもうすこし全部を知つてゝ觸れ合う元氣を示してください。

誰でもそうだらうと思ふのだが人間といふ奴は自分で得たり賢しこと臍の尾をしめる前に他人の事をとやかく謂いたがるものでかへつて相手に不快な思ひをさせるのです、批判もいいでしよう。氣にそきなければ語る前にまづなぐつちまへ解決もいいでしよう。

無軌道が丘氏の爲に無軌道の貴方達にも氣を寛せるのです。

道をルンペンとか失言されたのを私はいたく同氏の爲に殘念に存じます。

未だ靜にして社會の機構を氏は寫すに雛なりといきゝか失望しました、動し易い人は又動され易いものでいなむわけにもいけませんが太陽が西から昇るのを知りません。

純一がやつきになつて無軌道の爲に丘氏と鋒を交いたのも無理のない筈で、無軌道にはいづれ私が無軌道いもつべき態度を宣言します。

明日の吉凶

舊暦十二月二十日
新暦一月三十日

▲一白 の人思案せず進むが宜し願望次第に成就すべし▲二黒 の人急げば廻れ何事も直前すれば目先き眩らむ▲三碧 の人暫くの辛抱さへあれば後は吉日となるべし▲四緑 の人勝目あれ振らず働きて不足は言ふまじきこと▲五黄 の人悦びは束の間暗雲後より襲ひ來るべし注意▲六白 の人得るところ少くとも妄りに進出すべからず▲七赤 の人進まで得るなく退ても亦損すること多し▲八白 の人既往の放言が今日に祟りて苦み悩みある日▲九紫 の人運氣堅實となり學業も益々發展し行くべし

講談 幕末狂怒亂心 (146)

渡邊默禪作 宮野歌春畫

意外の要求、これにはどきりとさせられた

「う、う、奴！どう〳〵本音を吐きやがつたな」

眼尻がきりつとあがる

「き、切れて呉れと言ふなら切れてもやらう、だが、どう云ふ譯か、そ、それを言へッ！早く吐かせっ」

「言はなくたつて大抵知れそうなもんぢや御座いませんか」

勘太郎の熱するだけその反比例にお君は冷やかな態度である

「あなたは今何とおつしやいました、いやだ〳〵と思つた矢先に昔の馴染に逢つたもんだから急に乗り替へる氣になつたんだらうとそう言つたでせう、はいた察しの通り私しやつく〳〵あなたがいやになつたんですよ、愛想がつきたんですよ」

「な、な、何だと！」

勘太郎はこぶしを掴んで戰く足を開いた

「愛想もこそも盡きる譯ぢやありませんか、勘當されてからもう何年になりますあなたも男なら今頃は何とかうだつをあげて私等に樂をさせなけりやならない時分だのに、いつ迄乞食の眞似をさして置きだね、そんな意久地なしとは知らずに今迄連れ添つてつまらない苦勞をさせられたのが考へて見ると本當に馬鹿々々しい、勘、私しやこれからね

勘さん、あの梅さんのところへ行つて、オホヽヽ、燒木杭の何とやら〳〵通り可愛がつて貰つてさ、梅さんが侍なら私も差詰め御新造さんだろね「その御新造さんに出世をして一生樂をする氣だから前さんには誠に御氣もじさだがね、どうぞ清く別れて下さいな、可いでせう」

斯く言ふ下からうつむいて何故か慌てゝ袖の角を口にくわえた、その渾身がぶる〳〵と振ふるへる、勘太郎は再びかつそした

「奴！よくほざいた、よく地金を出しやかつた、手前の樣な義理知らずは、口で言つたつて理屈が解りやしまい、えつ！い、いつそのこと殺してやらう！」

と躍り揚つたが、何と思つたかばたりと材木の上によろけかゝつて兩手で頭を抱ねながら身悶えして泣いた

「勘さん、いゝともいけないとも早く返辭をして下さいな」

とお君はその姿を見詰めてすゝり上げたが、その泣き聲を聞かせまいとぐつとこらへて

「悪いと云はれたつて私の口から一旦言ひ出したことなら金輪奈落へ退くこつちやないから無理にも承知して貰ひますよエ、サ私の方から出て行きます」

と氣強いことを言つて

「それからあのこの兒ですがね、お前さんのところへ置いて行つた日にや男の手ぢやなか〳〵育て上る譯にも行くまいから手足纏ひで厄介だけれど此の坊やは私が連れて參りますよ、勘さん、是が御別れ直ぐと此處から出て行きますが、よござんすかね」

と立揚つて又横を向きながら泣いた

「待てッ！畜生！」

と勘太郎はむつくとと飛び起きてその襟をぐつとつかみ、炎の様な眼で睨む何か言はうとしても無念は激する喉のはり裂けるばかり聲も出ぬ。

「待てとおつしやつたのは未練で切れないのかね」

「ばば、馬鹿！き、貴樣の様な人非人に何の未練が殘るもんか切れるなと云つたつて、こ、こつちから叩き出してやる」と烈しく叫んだ泣き聲になつて

「だかのその坊やはやれないぞきさまの様な鬼の手にかつたらどんな辛い目に逢はされるか知れない、そんな奴に可愛い坊やがやられるかさあ置いて行け、渡して行け！」

民謡漫談(一)

抱夢生

私は音樂が好きである。樂器を奏すことは出來ないが聽く事に掛けては確に狂的である、何にも洋樂に限つた譯でない、大正九年まで十二年間の在京生活の大部分は放浪同樣であつたが音樂を聽くことだけは他人に増して惠まれた境遇に居つた故もあらう、聽いた度數としては洋樂が一番多いが音曲方にも執着があつたので芝の琴平亭や惠智十や京橋の金澤亭は勿論のこと場末の寄亭の浪波節や素人義太夫や猫八の物眞似に至るまで探し歩いたものだ。街にも街頭に漂ふ乞食樂人の端唄に一と街も着いて行つて見たり高架線の下の薄暗がりに吹き鳴らす座頭の貧弱な尺八に數時間立ち盡した事もあつた。又或る時は新内の流しを聽くべく大退け過ぎの廓内を逍ふたり唄賣り(艶歌軍)の拙ないヴイオリンの音に涙を流し聽き惚れもした。石城に入つてからは數年間音樂らしい音樂を聽く機會は殆どなく私の頭の潤ひが日に日に枯渇して來るやうな氣がした、ラヂオが最近此の地方に架設せらるゝやうになつてから充分とは行かないが漸く慾望の一端を滿足せしめる事が出來るのを唯一の樂みにしてゐる。

大正四年頃であつたと思ふ其ノ當時の海軍々樂隊の指揮者は現在の愛宕オーケストラの指揮をしてゐる瀬戸口藤吉氏であつた、私は其の頃海軍省の或る務に從事するやうになつたので數十名の樂手達が朝から晩まで練習してゐる築地の水交社の一角に暇さへあればお邪魔したものだ、現今でこそ管絃樂團と稱するものは帯で掃く程あるがあの時代には陸軍の戸山學校と海軍を除いては民間では三越呉服店の三越音樂隊と諭融館だけ京橋の吉町の金春館の管絃樂が稍開ける程度のものであつた、一般音樂界では山田耕作氏全盛時代で未だ交響樂即ちシンフォニーなどは無論なかつた、今でこそ指揮者として又作曲家として一流所になつた近衛秀麿氏などは存在すら知る者がなかつた位だ。そんな事は兎も角右のやうな關係から數年洋樂は世間の誰にも増して浴びる程聽いた、最初の中は夢我夢中で聽いたが段々と聽き巧者になり曲の梗概を呑み込んでから聽くと益解つて來るやうな氣がした。數年の後には大概の難曲でも内容を鑑賞することが決して左程難事でないやうになつたと思つてゐる其の他音樂學校や帝劇に於る名手の獨唱や獨奏も聽いたが私は遂、洋樂の爲めに涙を流した事はない。

廣告

吉田眼科醫院

平町田町
高久病院
電話五一三番

平町田町
赤心堂病院
電話四七五番

都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むきは品質本位の正札堂」

甲乙の社員が或る會社のテーブルを圍んで

甲「いや君此の頃の不景氣には困つたね……」
乙「ウーン全く困るね、銀行は閉門だし」
甲「時に君馬鹿に良い洋服をおごつたじやないか、何處で新調したんだね色も素敵だなあ、生地も」
乙「ウーンこれか、それ君も知つてゐる正札堂さ」
甲「あアー停車場通りの
乙「そーだ兎に角正札堂は平町で一番評判わいひからね……」
甲「全くだよ！……評判のよひ都驚くね、どうしてだらう」
乙「それは君都々逸にも「洋服は品質本位の正札堂が着よく丈夫で誰も好く」とある樣に品が良く價が安いからだよ」
甲「成る程君は素敵な都々逸を知つてゐるね」
乙「マアー洋服は正札堂に限るよ、アハヽ、
甲「アハヽヽ、、、、、

正札堂

三益玉炭のお奬め

三井物産會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス

□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ強ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分ニ合ヒマス
□ドンナニ嗜はずきらいノ人でも一度使へバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス

値段ハ壹箱金貳圓 個數ハ約八百個内外

御申越次第見本ヲ持參シテ御覧ニ供シマスカラ御申越下サイ

平驛前 阿部石炭商店 電話二三七番

大日本民謡演奏大會

主なる演奏者

仙臺ラヂオ放送局民謡研究會長 後藤桃水先生
幹部 吉木桃園女史
幹部 赤間森水氏
幹部 八木壽水氏

特別來演者

各宮殿下賜御臺覽榮 福島名物男 熊田三郎氏
縣下民謡代表大家 阿部晴月氏

平地方民謡飛入出演希望者歡迎
飛入競演は民謡に限り一人二種審査の結果優秀者へは呈賞……且つラヂオ放送蓄音機吹込選手として推薦を致します
審査……後藤桃水先生

期日 三十日 三十一日 兩日 午後六時ヨリ開演
會場 平館
會費 五〇 三〇
主催 河北新報社平支局
飛入出演者は河北新報平支局へ申込下さい

新築落成

耳、鼻、咽喉科 氣管食道科 (專門)

平町南町(舊診療所向電一七〇番)

大和田醫院 大和田郡司

◆自炊の便あり

安全第一

諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精々御利用下サイ

營業課目
勸業債券
復興債券
公債其他 兩替 金融
貨物一般 取扱

多田井商店 平町大工町

營業種目

内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負

外材部
米松、米杉、大角製材調達請負
其他

(百) 佐藤材木店 常磐線平町新川町 電話三三五番

平町より大國魂へ 縣道編入確定
地方民の便益至大 鈴木縣議の功績

平町月見橋より石城郡飯野村北白土を經て夏井村大字菅波字宮前鎮座縣社大國魂神社に通ずる道路は縣議鈴木辰三郎氏が前々回の縣議在任當時から縣道編入の猛運動を繼續し來たが今回愈々内務省から認可の指令があり茲再三中に縣報を以て發表される筈である、由來部記大

國魂神社 所在地は同郡草野村より六十枚を經て夏井村荒田目より同村藤間及び高久村を經由し豐間、江名に通ずる縣道即ち草野江名線中の夏井村荒田目ノ駐在所脇より分岐すれば僅に數町を出でずして完全に縣道と連繫する事が出來るので從來その筋では今回縣道に編入されたる平町起點の道路は之れを縣道に編入す必要が無いと云ふ見解に基きその詮衡に漏れてゐるものであるが從來の縣道たる

草野江名 線は途中縣道としてゐるまじき六十枚橋の難所あつて一朝降雨出水の場合には假橋流失破壞により幣帛供進使の參向不可能から延えて祭事を執行出來ね打合あるべきを豫想せねばならぬばかりでなく同社の參拜者は地勢上草野、江名線によるもの至つて少なく殆むど擧げて委く平町よりするものが多い實情にあるので鈴木縣議は深く此の點に鑑み前々回の縣議在任中より繼續して之れが編入の運動に撣心の努力を拂つたもの、地方民一般はその功績を感謝してゐる

疾くも開始した 潜航式の運動
毛色の變つた者も出る 石城町村議選擧

石城郡内各町村の町村會議員の改選は本年四月末から夫れ〜執行される事になつて居るが、郡内を通じて一番運動の猛烈さを豫想されるのは平町を始め湯本、小名濱、植田、四倉江名等の有權者の多い町々新有權者の多く の階級鬪爭の熾烈な炭礦所在町村とである、平町の如きは現に一部野心家が町議の椅子を目的に種々策動をなしてゐる點もあり、平署の特高課がそれ〜秘密裡に査を進めてゐるも由である此の町村會議員選擧は普通選擧施後第一回であり且に縣議戰、代議士戰が行はれてゐるだけ運動方法等も從來と異り同時に

所謂民衆を背景に毛色の變つた候補者が續出する事と豫想される村落に於てはこの現象が著しくないにしても平町その他各町並に炭礦所在町村には殊の外毛色の變つた候補者が名乘りを擧げ逐鹿場裡を賑はすものと見られてゐる既成政黨を背景に名乘つて出る者の數は相半ばすると見て從來のそれと比較して殊に多くなるのは既成政黨によらず地方自治町村には政黨の必要なしと叫ぶ所謂中立ヶ看板にする候補者で、結果に於て何れが勝利を占めるかこれ亦

頗る興味ある問題として見られて居る、何れにして、政爭の激烈なる點では縣下屈指の石城郡内が各町村毎に猛烈な競爭が續ける事とて平、四倉、植田各署では今から取締の準備に急ぎつゝある

商品炭俄かに沸底し 噸一圓の値上
數年來曾つてなき現象 常磐炭活氣つく

常磐七大炭礦より成る木曜會では昨年夏以來並に送炭制限を實行し専ら炭價推持に努めた結果好成績を示したる旨屢報の如くであるが然かも炭界は益々好調に進展し逐ひ商用炭ヶ逼迫ヶ見るに至つたので二月一日より一噸平均一圓の値上げヶ斷行することゝなつた、然かも毎年夏季に於て貨車常運の都合上東京隅田川驛に貯炭し需要期に此處より市場に搬出する爲め年々此の一、二圓の候は不炭の過剩を示し隨つて値下げを見るのが常例であつたのに本年は昨年夏以來の出炭利限により隅田川驛に山積する貯炭が殆むど皆無の爲め遂ひに市場に商品の不足を見たもので斯くの如きは數年來曾つて見ざりし好兆にして各炭礦とも近來になき活氣を呈し若し此の儘四五日頃まで續けば相當顯著なる炭礦の景氣復活を見るものと豫想されてゐる

平に窒扶斯
本年最初の患者

平町にける昨年の腸チブスは十數年來の大流行を見たので昨年十二月二十八日まで入院患者があり二十九日から漸く傳染病院の戸を閉め一安心しだがそれも束の間去る二十六日平町三丁目齋藤定吉(六三)が腸チブスと決定して傳染病院送りとなつたが本年最初の入院患者である

人夫の怪我
トロの下敷き

平町六丁目日雇外岡深太郎(四三)は二十六日午前十一時ころ同町月見町片倉磐城製絲工場の建築工事に從事中トロ運搬中あやまつて運搬車の下敷となり重傷を負ふた

消防の話 (一)
平消防組頭 井上茂作

左の一篇は去る一月十五日井上茂作氏が仙臺放送局から放送した要旨である。

消防の事をお話致しますに就て茲に謹んで述べなければならぬ事は畏多き事ながら今上陛下未だ皇太子殿下に御在します御時即ち大正十五年一月六日東京の消防を御親閲遊ばされたのであります昨秋は又曠古の御大典を行はせらるゝに方り我々消防代表者を御召

然るに更に亦去る六日は全國消防代表者一萬八百人の宮城外苑に御召し御親閲を給はる光榮に浴しましたのであります。

◇

此機會に於て陛下の御聖德を拜承し置く事は國民として最も必要なる事であると考へます故に當路の大官より拜謁し又は現に御親閲、當日直接拜觀致しました光景を御話し致しないと存じます御承知の通り當日は非常に風力強く或は十沉メートル以上の强風かと覺しく風が吹き荒みまして内務大臣の奏上文の紙はちぎれて飛び散つたのであります而も陛下には一段高き處に不動の御姿勢をもちまして約四十分擧手の敬禮を御執りつゝ御親閲ヶ遊ばしました其間全く直立不動の儘一歩も御足を御搖るぎなかつた其正しき御姿勢には供ども恐縮の外ないのでありましたが陛下の此正しい御姿勢は我々國民に何を致へ何を御示しなさるものでありませうか、私は惟ふに御姿勢の正しきことは汝等心を精神を斯の如く正くせよと仰られたような感じを致しまして衷心から感激ヶ打たれたのであります

◇

陛下の御聽明に渡らせらるゝことは申すまでもないのでありますが曾て攝政宮殿下に御在します御時御年二十一才かと記憶しますが彼の虎の門事件と云ふ不祥事が突發致しまして國民皆驚愕し宮中府中ノ大官等は極度に周章狼狽し心痛の餘り今後は重大なる御儀式の外御出ましを少く致したと云ふことを御伺へを立てました處殿下には斯る機を減少するとせば、却し善良なる國民を疑ふ結果となりはせぬかと仰られ一同恐縮背に冷水を浴せられたる感い打たれたと言ふことを拜致しましたが臣子の分とし憂慮の餘り斯く申上ぐることは當然のことゝ謂はねばならぬが此宏量海の如き殿下か今や昭和の御代を御統制遊ばさる陛下として御臨在しますのであります

◇

故に吾人國民は地球の上に建設しある處の何れの國家孰れの國民よりも優越したる地位にある國民として世界に誇り得ると考へるものでありまして即ち吾八國民は誠に不世出の明君を上に戴き奉り生活することは深く感謝せなければならぬと信ずるのであります。此度消防御親閲の擧も即ち深き御聖慮の涯りであると存じまして歡喜感激に堪ねないのであります。

好間農事協議

石城郡好間町農事實行組合長會議は二月四日午前九時より同村役場内に開會し農事諸般の事項に就き協議する

長さ六間の竹桿で 自動車を突き拔く
疾走中の神谷街路で 乘客右眼を貫く

平町田町白土自動車部事白土利助方運轉手白土東一(二四)は昨二十八日午後六時頃六六八號を運轉して四倉町より平町に向つて疾走中神谷村字鎌田地内國道にさしかゝるや前方より長さ六間餘の竹桿を擔つて步行し來た同村好次郎妻田中ミン(四五)は自動車を除けんとした調子に竹桿の先を運轉手助手臺のセルロイド製窓を破り乘客平町胡摩澤政次郎妻小谷ツマヨ(四四)の右眼に突きさし全治十日間の裂傷を負はしたが平署では詳細取調中であるが近來珍らしい椿事である

醉つ拂つて 巡査に亂暴
三郎一夜檢束

平町七丁目土木請負業志賀兵吉養子三郎(二四)は二十八日午後九時頃南町通りに於て泥醉し折柄巡邏中の金子巡査に喧嘩を吹き掛け亂暴を働んとしたので平署に檢束され今朝嚴重說諭の上放還された

排水は二週間位 復活は容易
出水は寧ろ好結果を 隅田川出水の後

石城郡好間村小田吉治氏個人經營に係る隅田川炭礦が去る二十五日正午ころ突然の出水に遭遇したが幸ひ從業員には何等支障のなかつた事は昨報の如くであるが同礦は現在廢坑となつてゐる舊炭礦と隣接してゐる關係上ゝて地質の關係上早晩出水の襲來は經營者たる小田氏としても充分豫期しその豫防準備に努めてゐた、矢先たいての出水事とて他炭礦における出水の場合では全然、その趣きを異にし聊か狼狽する處なく出水直後二百立方のポンプ三臺を据わつけ排水に日夜努力してゐるので一時間三尺乃至四尺の減水狀態を來してゐるから此の調子で行けば二週間以内には採炭作業をなし得る程度まで復舊する筈である尚同炭礦には現任從業者三百名迄收容し之等勞働者は全部同氏經營の元山坑へ一時移動せしめる事になつたので、勞働者の解雇及それによる不安や不穩氣分は全然無く、極めて平穩にある右につき一從業員は語る、

「同坑の出水は豫期してゐたためであるが唯時期が豫定よりも多少早かつたまでの事で、少しも狼狽しなかつた該出水量は或一定に留まりこれ以上出水の心配は無いので當然排水の必要に迫られ、其準備中をこの襲來に出逢つたまでの事で、同坑としては、むしろ今回の出水は今後の作業上尤も有利に展開するものと思つてゐる」

郡農會總會
豫算決算附議

石城郡農會總會は來月六日午前十時から元石城郡役所に開會し昨年度決算明年度豫算其他數項を附議決定する

無許可の無盡講や 潜りの惡桂庵
湯本の頼母子講を檢擧 平署嚴重に取締

石城郡地方は舊正月も愈々切迫してゐる折柄イカモノ商賣の奸商や惡桂庵等が跋重な法網をくゞつて盛んに炭坑方面に入り込んでゐるので平署ではこれら不良商人を絶えず掃蕩に努めてゐるが去る二十七日湯本町三函居住鳶カノ(四七)を檢擧し秘密裡に取調中であつたがカノは頼母子と稱し無許可に無盡講を始め近在より十六名の講員を奸言を以つて勸誘し現在各員より五圓餘宛徴集してゐたもの、此の種の手段は一ヶ月一口五圓餘を積み籤引に依り一回九十七圓餘を當籤せしめる無盡講で平署では此の種のものに對しては縣令講會取締規則違反として今後どし〜檢擧し千圓或は五十圓以下の罰金に處す筈である

名寄帳整理
一町村廿圓補助

平税務署管内四十ヶ町村役場の土地名寄帳整理國庫補助金九百圓の割當に就ては同署に於て目下調査中であるが大體平均一ヶ町村二十圓見當であると

落盤で重傷
腰を折り危篤

石城郡赤井村福島炭礦長屋山佐先山夫齋藤新次郎(三四)高橋彦三郎(二四)の兩名が二十八日午前七時ころ同坑第七財に於て作業中落盤のため齋藤は右肋骨を挫折高橋は背部腰部に裂傷を負つたので平町植田醫院に擔ぎ込み手當を加へたが中々の重傷である

兩足を切斷
ガソリンに轢かる

石城郡四倉共同運送社人夫坂野節之助(四九)は二十七日午後一時半石材運搬中磐城セメント會社のガソリン機關車に兩足を轢かれ即死した

詐欺の訴へ
田地を種にして

石城郡飯野村大字谷川瀨山崎郡千は昨年六月中同郡好間村上好間居住瀧永一から同人所有借地權の畑三段歩を金五百七十五圓で買入れる契約をなし手附け金として金三百廿圓を渡したが其後今日に至るも迄賣買の登記をしないので山崎は右畑の實地調査をした所、右の土地は他人の名義なることが判明し詐欺にかゝつたことを知り二十八日同人を相手取り平署に告訴を提起したものである

販賣利用役員會
區域を擴張して役員增員 借入金高を決定

石城販賣利用組合では去る二十六日午前十時から元石城郡役所内に於て役員會を開催したが當日の協議事項は次の如く決定可決し

△諸積立金は事業資金に運用すること

△四年度に借入るべき最高金額は三十萬圓とする

△特別積立金四千三百八十八圓で準備金二千五百圓とすること

△定款變更 双葉郡木戸村を同組合區域に編入すること、理事五名を七名に增員すること

△役員は吉田彌平、兒玉萬平、仲田政吉、三氏(同じく督さ)に改選した

平町地下採掘の 愈々實地調査
池知技師一行來平 あすから一週間

石城郡好間村古河炭礦同内郷村磐城炭礦より平町の地下採掘を仙臺鑛山監督局に出願されたことについて平町は極力これに反對し過般も伏見町長が仙臺鑛山監督局に出頭して反對陳情を試みたが監督局では平町郊外と町内の區劃調査を行ひその結果によつて採掘の許否を決することになりいよ〜來る三十一日より一週間池知技師一行が來平區劃調査を行ふことに決定した

紅燈街

平町田町藝妓置屋湖月事鈴木千代助方抱藝妓伊澤郡桑折町生れ文助事館かね(二四)は去る十五日午後五時頃無斷家出したまゝ行衛不明となつたので鈴木は平署に搜査願を出す一方心當りを搜査の結果同人は飯坂溫泉橋本屋旅館に女中奉公中を發見され廿八日說諭の上主人に引渡した

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE MARK REGISTERED
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店 會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 ㊇ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

磐城病院改稱
市原病院
平町田町（電話一一四番）
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三男

父要儀病氣療養中の處今朝七時死去致し候略儀紙上を以て辱知各位に謹告仕り候
追而葬送の儀は三十一日午後三時自宅出棺古鍛治町良善寺に於て佛式により執行仕り候
昭和四年一月二十九日
男 遠藤鑑
外親戚一同